

ハーマン・メルヴィルと黒人音楽

Redburn を中心に

巽 孝之

不機嫌なイシュメール

ハーマン・メルヴィルが 32 歳の時に発表した第 6 長編『白鯨』*Moby-Dick* (1851) の冒頭では、何とも不機嫌なイシュメールがマンハッタンを散策し、いつしか誰のものともわからぬ葬列について回ろうとするのが、いかにも奇妙に見える。彼はいったいなぜかくも不審な素振りを見せるのか、発表者は長年の間、不思議に思っていたが、ここに来て、一つの仮説を提示したい。この葬列は音楽を伴っていたのではないか？ それにつられるようにして、イシュメールは葬列について行きたくなくなったのではないか？ 映画『エンゼル・ハート』(1987) にも見られるように、現在、ジャズ葬列 (Jazz Funeral) の名で親しまれる葬儀の行進は、決して珍しくないからである。

その可能性を考える時、この作家の音楽的原風景が州都オルバニーなどニューヨーク州各地において毎年 5 月に開かれていた黒人音楽祭ピンクスター・フェスティバル (Pinkster Festival) だったことが想起される。もちろん、アメリカ深南部ニュー・オーリンズが起源とされるジャズそのものは、正式には世紀転換期のラグタイムを経てから、20 世紀初頭によく成立したと見るのが、常識である。だが、黒人音楽はジャズだけではない。それは 19 世紀どころか 17 世紀植民地時代の昔から、アメリカ北東部ニューヨーク州を中心に着実に成長していたのだ。必ずしも直接的なジャズの元祖ではないものの、まぎれもない黒人音楽。若き日のメルヴィルはまさにそのサウンドスケープを自明のものとした上で自身の「耳」を育んだのではあるまいか。

ピンクスター音楽祭と『レッドバーン』

ピンクスター音楽祭は、アメリカ独立革命以前から北米東部にひしめいていたさまざまな祝祭の一つである。カリフォルニア大学バークレー校の黒人教授スターリング・スタッキーによれば、この祝祭は、基本的にはメルヴィルの母方の家系ガンズヴォート家の出自と同じオランダ系移民が 17 世紀に北米植民地に持ち込み、やがて独立革命から 19 世紀前半に至る過程で、オランダ系アフリカ文化の色彩を帯びる。とりわけガンズヴォート家の暮らすオルバニーでは黒人音楽祭の傾向が濃厚になった。父アランの事業の失敗で 1830 年、11 歳にしてマンハッタンからオルバニーへ引越すことになったメルヴィルにとって、ピンクスター音楽祭は毎春の風物詩となったのである。

語源的には“Pinkster”の起源は“Pentecost”(聖霊降臨日)、すなわち“Easter”(復活祭)から数えて 7 番目の日曜日であり、救い主イエス・キリストが復活した 50 日目にキリストの使徒たちの上に「真つ二つに裂けた炎のごとき舌」に象徴される聖霊が舞い降りたことを記念する祝日を指す (2021 年ならば 5 月 23 日)。ユダヤ教では過越の祭から 50 日目なので「五旬祭」とも呼ばれる。そしてまさにこの聖霊降臨日こそは、イエスから天国の鍵を受け取ったシモン・ペテロを指導者としてキリスト教会が世界中に広まってゆく契機であった。

故に聖霊降臨を起源とするこの音楽祭の参加者たちは、世の全ての上下関係を逆転する転覆的想像力を享受する。『白鯨』第 40 章で、昼間の一切の業務が終わった深夜の船首楼で、アゾレス諸島出身の船員が黒人少年ピップにタンバリン演奏をせがみ、それを承けたピップが巻き上げ機の係柱に昇って演奏を始め、多くの船員たちが彼のリズムに合わせて踊り出す場面などは、明らかにピンクスター音楽祭を反映している。ここで語源たる“Pentecost”(聖霊降臨祭)に思いを致すなら、『白鯨』の原型の一つとも言える第 4 長編『レッドバーン』*Redburn* (1849) が、聖霊降臨の意義を多民族国家アメリカの文脈において変容させたことは見逃せない。

ここ西半球では、ありとあらゆる部族と人民が寄り集まり一つの連合国家となった。そこでは近い将来、ばらばらになっていたアダムの子孫たちが、懐かしのエデンの園へ再結集して一家団欒を楽しむことだろう。(中略)そしてバベルの塔の呪いは解け、新たな聖霊降臨の瞬間が訪れ、人々が喋る言語はイギリスの言語に統一されよう。フランス人もデンマーク人、スコットランド人、それに地中海沿岸やその周辺地域に暮らす者たちや、イタリア人、インド人、北アフリカ人もみんながみんな、真つ二つに裂けた炎のごとき舌が降臨するのを目撃するだろう。(『レッドバーン』第 33 章、169 頁)

ここでメルヴィルは旧約聖書のバベルの呪いを新約聖書の聖霊降臨がいったん解いたものの、アメリカ合衆国

においてはさらにバベル以前の共通言語の再来でもあるかのような英語によって多民族の統一が成されるところに、新たな楽園神話の可能性を見出す。しかも本書では、主人公レッドバーンの親友になる歌の天才ハリー・ボルトンや小型手回しオルガンの名手であるイタリア人少年カルロが登場するが、とりわけカルロの絶妙の演奏は船上にあたかもムガル帝国の王宮舞踏会をも彷彿とさせる一大ページェントを出現させ、黒人奴隷を含む様々な連中が踊ったり曲芸をしたりし始めるのだから、これは明らかにピンクスター音楽祭の影響下で書かれた一種の多民族的音楽小説なのである。

『詐欺師』の冒流的転回

もともと、それから 8 年後の 1857 年に発表されたメルヴィル第 9 長編にして生前最後の完結した小説『詐欺師』 *The Confidence-Man* の第 7 章においては、聖霊降臨の概念がさらに一捻りされることも、忘れるわけにはいかない。聖霊降臨は本来、異言語を語り始めた人々の間で唯一絶対のキリスト教精神が着実に共有され伝達される奇跡であるが、本書『詐欺師』でメルヴィルは聖霊としての「真っ二つに裂けた炎のごとき舌」に詐欺師の口八丁手八丁ぶり、邪悪なる二枚舌のイメージを重ね書きして徹底的に冒流し脱構築し、とてつもないブラックユーモアを醸し出す。メルヴィル晩年のスタイルの端緒が、ここにある。

Works Cited

- Apgar, Peter D. *Festivals of Colonial America: From Celebration to Revolution*. MA thesis in Museum Science submitted to the Graduate Faculty of Texas Tech University, December 1995.
- Cézar, Waldo. "From Babel to Pentecost: A Social-Historical-Theological Study of the Growth of Pentecostalism." Corten and Marshall-Fratani, 22-40.
- Corten, André and Ruth Marshall-Fratani, eds. *Between Babel and Pentecost: Transnational Pentecostalism in Africa and Latin America*. Indiana UP, 2001.
- Dewulf, Jero. *The Pinkster King and the King of Kongo: The Forgotten History of America's Dutch-Owned Slaves*. UP of Mississippi, 2017.
- ."Pinkster: An Atlantic Creole Festival in a Dutch-American Context." *Journal of American Folklore*, vol.126, no. 501, 2013, pp.245-71.
- Levine, Robert and Samuel Otter, eds. *Frederick Douglass and Herman Melville: Essays in Relation*. U of North Carolina P, 2008.
- Melville, Herman. *Redburn: His First Voyage*. 1849. *Redburn*. Ed. Harrison Hayford, Hershel Parker, and G. Thomas Tanselle. Northwestern UP and Newberry Library, 1969.
- ." *The Confidence-Man: His Masquerade*. 1857. Northwestern UP, 2002.
- Roberts, Russel. *Holidays and Celebrations in Colonial America*. Mitchell Lane, 2007.
- Stucky, Sterling. *African Culture and Melville's Art: The Creative Process in Benito Creno and Moby-Dick*. Oxford UP, 2008.
- ."Cheer and Gloom: Douglass and Melville on Slave Dance and Music." Levine and Otter, pp.69-87.
- ." *Going through the Storm: The Influence of African American Art in History*. Oxford UP, 1994.
- ."The Tambourine in Glory: African Culture and Melville's Art." Robert Levine, *The Cambridge Companion to Herman Melville*. Cambridge UP, 1998, pp.37-64.
- White, Shane. "Pinkster: Afro-Dutch Syncretization in New York City and the Hudson Valley." *Journal of American Folklore*, vol.102, no. 403, 1989, pp.68-75.